

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020年 1月 22日

公益財団法人 笹川保健財団  
会長 喜多悦子 殿

## 2019年度地域啓発活動助成

### 活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

#### 記

活動課題

第4回下北地域訪問看護フォーラム～こどもたちみんなにすてきな今日を～

活動団体名：むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会

活動者（助成申請者）名：二本柳 舞

## 1. 活動の内容・実施経過

○第4回 下北地域訪問看護フォーラム～こどもたちみんなにすてきな今日を～  
<開催概要>

- ・名称：第4回 下北地域訪問看護フォーラム
- ・テーマ：～こどもたちみんなにすてきな今日を～
- ・日時：令和1年10月12日（土） 13：00～16：45
- ・会場：プラザホテルむつ
- ・参加者：下北地域の保健医療福祉職（専門職）71名

下北地域の住民（一般参加・高校生ボランティア）15名  
医療機器業者4名、以上合計94名

### ・内容

- 1) 開会 むつ総合病院 地域連携部 訪問看護認定看護師（総合司会）二本柳 舞
- 2) 開会の挨拶 むつ総合病院 小児科部長 中畠 徹先生
- 3) 講演 I 「音ごはんライブ&トーク」（動画とメッセージ代読）  
(子育て応援主婦バンド「音ごはん」 岡本 元子氏・浅子 智美氏)  
・・・・休憩・各展示ブース紹介など・・・・
- 4) 講演 II 「はじめるべし！小児訪問看護」  
稚内訪問看護ステーション 管理者 訪問看護認定看護師 古川 典子氏
- 5) 医療的ケアの必要なこどもに関する情報提供など  
みちのく訪問看護ステーション 管理者 吉田 愛氏  
むつ総合病院 小児科病棟 看護師 武川 萌子氏  
相談支援事業所 ぱれっと 相談支援専門員 野口真紀子氏
- 6) 会場ディスカッション
- 7) 閉会  
むつ下北地域看護と介護の連携作り委員会 委員長（むつ総合病院看護局長）甲田久美子

- ・主催：むつ下北地域看護と介護の連携作り委員会
- ・協力：共立医科器械株式会社 株式会社シバタ医理科 樋口ホスピタルサプライ  
フィリップス・レスピロニクス合同会社 株式会社北斗医理科  
むつ人権擁護委員協議会 下北ケアの会わらどのわ 育自の魔法  
むつ総合病院ファックス協議会 むつ下北薬剤師会在宅推進委員会  
むつ市在宅医療・介護連携支援センター たねまき7

## 2. 活動の成果

むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会では、平成28年から年1回「下北地域訪問看護フォーラム」を開催してきた。テーマは看取りなど主に高齢者や障がい者の訪問看護や在宅療養に関する内容で、ケアマネジャー、ヘルパー、薬剤師、在宅医、訪問看護、行政などのネットワークも発展してきていると申請者自身も実感できていた。

一方で、医療的ケアを必要とする子ども達や重症心身障がい児に関しては、支援はまだ点でしかなく、それぞれの専門職のつながりが希薄なイメージのままであった。

病院内に掲示していたフォーラムのポスターを見た入院中の小児の母親から「こういったイベントが地元で行われることは無かった。遠方に出向かなくても参加できるのは嬉しい。他のお母さんたちにも宣伝したい。」と声をかけていただいた。すでにそこからわずかながら「成果」を感じ始めていた。

フォーラム当日は、台風19号の影響で、講演を依頼していた「子育て応援主婦バンド：音ごはん」の方が来場できず、急遽プログラムを変更し、準備していただいた動画（バンドの演奏やメッセージ）を流し、原稿を代読させていただく形での対応となった。それでも参加者からは、「次回はぜひ来てほしい」「日々の生活が語られ感動した」「素敵な活動を知ることができて良かった」「お母さん方の気持ちが分かった」「色々な思いがこみ上げて涙が…」など（アンケート結果参照）の感想をいただき、お母さん方は音ごはんの方々の活動やメッセージに共鳴し、支援者側にも障がいを持つ子供やお母さん方の気持ちが伝わり、そこから当地域での障害を持つ子供たちへの支援の充実を願いベクトルを合わせていくきっかけになったと感じている。

当地域にある3ヶ所の訪問看護ステーションは、これまでに小児訪問看護は少人数しか実施していなかった。単純に医療機関からも家族からも依頼がなく、「需要」が無いだけだと思っていた。

訪問看護認定看護師の古川典子氏に、小児訪問看護についての実践を通しての講演は、ITを取り入れるなどの個別性を重視した取り組みの数々、子供達やご家族との関わりの深さ、一緒に成長発達を見守っていく姿勢など、当地域の訪問看護師達のモチベーションを上げる素晴らしい内容であり心に響いた。訪問看護師だけでなく、様々な専門職が、それぞれにできることを考える機会にもなった。

小児科病棟の看護師、訪問看護ステーション管理者、相談支援専門員それぞれの取り組み発表や情報提供も、当地域の実情を共有する有意義な内容であった。それぞれが発表することによって、発表者自身も、参加者も「点」でしかなかった支援がつながっていくのを実感しているように感じた。

休憩時間も医療機器に集まり熱心に話を聞いたり体験したりしながら、参加者同士が交流できる場となり、悪天候ではあったが、当地域の訪問看護を始めとする小児の在宅療養支援の未来が見え始めた印象であった。

それは、フォーラムから数日が経過し、お母さん方から個別に相談が来たことで明確にな

った。「訪問看護っていうものがあるのは知っていたけれど、高齢者だけしか利用できないのだと思っていました。医療的ケアはないけれど、うちの子も訪問看護師さんに来てもらうことはできますか?」そこですぐに相談支援専門員と訪問看護につなぎ、ホッとするお母さんの表情を見ることができた。そこから数件同様の相談が続いている。

このテーマで助成を申請する際に、小児の在宅療養支援が「点での関わり」から「線としてつながる」期待が深まる効果を共有したい、と記した。それはお母さん方の言葉や行動から感じることができた。

### 3. 今後の課題

参加して下さった小児科医から「継続は力なり」の言葉をいただいた。今回のフォーラムで満足することなく、むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会の理念である「シームレス」「セクトレス」「エンドレス」を年代を超えて発展させていく、つまり小児を含む地域包括ケアシステムの構築につながって行くよう、ライフワークとして継続していきたい。

来年度は必ず、台風19号の影響で来られなかつた「音ごはん」の方々の生の演奏と生のメッセージを届けてもらいながら、今回のフォーラムから1年経過したそれぞれの活動の成果を共有したい。

申請者の活動としては、まずは小児に関わる支援を可視化できるようなツールの作成に取り組んでいきたいと思っている。

### 4. 活動の成果等の公表予定（学会、雑誌）

学会発表や雑誌への投稿の予定はない。数年継続して実施して小児を含む地域包括ケアシステムが発展してきてることを実感できたときに検討したい。